



まっばら

令和 3 年 度
第 6 号
令和 3 年 1 0 月 1 日
草加市立松原小学校

思考力・
判断力・
表現力

新しい学びの積み重なり

校長 中村 哲也

ようやく暑さも和らぎ、朝夕の風に涼しさを感じる季節となりました。「猛暑」「酷暑」の日々が懐かしく感じられるほどです。2学期が始まり1か月が過ぎ、子どもたちは、ホームページで紹介させていただいているように勉強に運動に力一杯取り組んでいます。

さて、今月は「学力」について、お話してみたいと思います。そもそも「学力」とは何かと考えた時に、以前ははっきりと定義されておらず、各学校、各教師の考えでとらえられることが多かったように思います。しかし平成19年に法律によって定義付けられました。まとめると学力とは

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、

①基礎的な知識及び技能を習得させる。

②これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力。

③主体的に学習に取り組む態度。

(学校教育法第30条2項)

となります。そして昨年度、小学校では新しく学習指導要領が改訂され、全ての教科の目標が学力とリンクし統一され

①生きて働く知識・技能

②未知のものにも対応できる思考力・判断力・表現力

③学びに向かう力、人間性



と変化しました。つまりこれは、以前のようなドラえもんの暗記パンよろしく、知識の量を獲得させることのみにとどまらず、他者との対話を通して知識を結び付けたり、比較させたりしながら持っている知識の質を磨き、未知のものにも対応できる活用力を身につけさせていくことが大切であることを示しています。そこで学力を向上させられるよう、本校で取り組んでいることの一端を紹介いたします。



まず、児童一人ひとりの学力向上を図るために、今一度、教員の授業改善、授業力向上を図っているところです。「主体的・対話的で深い学び」を得られるように国語科・算数科指導を重点とし、研修を重ねて教員一人ひとりの指導力の向上を図っています。公開・研究授業を実施し、指導者を招きながら全教員で協議し「わかる授業・やりがいのある授業」の実践に取り組んでいます。また、対話を重視した「学び合い」による、より考えが広がり、深まることのできる授業を展開できるよう心掛けています。教師主導ではなく、児童を主体とした話し合いを通して、課題解決のための意見を交換し、その中で、「自分の考えを表現する」「人の意見を聞き、考えを広げる」経験をたくさんさせながら課題を克服できるよう心掛けています。また、教師の板書も「わかりやすさ、要点、解法の手順」などを黒板一枚にまとめ、1時間の流れが把握できるよう「見やすさ」「わかりやすさ」を工夫しています。そしてタブレットを用いた学習においても、タブレットだからできることを日々模索しているところです。今後も、全教職員で指導法の改善をさらに進めてまいります。



今年度おこなわれた全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の結果が戻ってきました。現在、学校にて結果を分析し、今後の指導方法を考察しているところです。結果の概要については次号でお知らせいたしますが、結果から日々の取り組み、子どもたちの頑張りが大きな伸びとなって表れてきていることがわかります。

また先日、6年生の授業参観をした時のことです。教科書を一人の女の子に貸してくださいとお願いすると、「ハイッ◎」という気持ちの良い返事と両手で教科書を差し出してくれました。その後、該当のページを探していると、「28ページです◎」ととてもさわやかな様子で教えてくれました。こんなに自然に、そしてさわやかに対応できる6年生を誇りに思います。学力だけでなく、心の成長も頼もしい限りです。



今後も児童に生きる力を培えるよう、職員一丸となって支援・指導を重ねてまいります。保護者の皆様、地域の皆様、引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。